

母校訪問

「昔はライバル同士、今はともに国を守る仲間」



懇談の様子

自衛隊神奈川地方協力本部横浜地区隊（隊長 林1陸尉）は、12月23日（水）、今年度入隊隊員の母校訪問を支援した。

横浜出張所から入隊した山田2等陸士（当時）と市ヶ尾募集案内所から入隊した中島2等空士（当時）が母校である神奈川県立新羽高等学校を訪問した。

二人は同じサッカー部でゴールキーパーのポジションを争うライバル同士だったが、今では陸自と空自の違いはあるが志は同じ、自衛官になった。

学校では進路指導の教員と懇談し、進路指導の教員が「自衛官になった教え子は何人も見ているが、どの子を見ても自衛隊にお任せしてよかったと思う」と話すと、隊員たちは「進路に悩んでいるときに自衛隊を進めてもらって本当に良かった」と語った。

そして2人を見た後輩たちから「先輩かっこいい」と歓声があがり、隊員たちは「後輩たちが自衛官を目指したくなるような見本となるべく、これからも努力していく」と語った。

また、今年度は新型コロナウイルス感染防止により、入隊式・修了式を見る事ができなかった両親にも初めて制服姿を披露する機会となった。

親たちからは「初めて制服姿を見て感激した。あらためて息子が自衛官になったという実感が湧いた」「自衛隊には息子を立派に育ててもらっている。これからも期待している」という声が聞かれた。

横浜地区隊は、「今後も本制度を活用し、4個事務所一丸となって積極的に母校訪問を支援して、家族や学校の自衛隊に対する理解を深めていきたい」としている。



広報官も一緒に記念撮影



制服姿にご家族も感激！

高工校生徒による説明会

説明を受けた小林君は「貴重な話を伺えて意欲が増しました。高工校の受験に向けてもっと頑張ります」と力強く語り、保護者も安心されていた。

川崎出張所では「今後も隊員や学生と連携を図り、受験希望者の疑問や質問に回答し、受験希望者の不安を払拭したい」としている。



質問に答える佐久川生徒（左奥）と受験希望の小林君（右奥）と保護者（右手前）



小林君（左）と佐久川生徒（右）

自衛隊神奈川地方協力本部川崎出張所（所長 佐藤3陸佐）は1月4日（月）、陸自高等工科大学2年生の佐久川デレック生徒の協力を得て、高工校受験希望者とその保護者に対して説明会を行った。

佐久川生徒は平成30年度に川崎出張所から高工校へ入学した。夏には休暇を利用して